不屈の精神で市民の生命と財産を守る消防団

消防団定期観閲式

第10回つがる市消防団定期観閲式が6月15日、イオンモールつがる柏の駐車場で行われました。観閲式では、消防団員が日頃から行っている防火・防災訓練の成果を観閲者である福島市長に披露。服装、分列行進、機械器具点検等の審査が行われ、火災のない安全・安心なまちづくりに決意を新たにしました。

総合優勝を果たした柏大隊の分列行進

白熱の玉落競技大会

福島市長による視閲点検

玉落競技（50馬力以下）で優勝した
木造第6分団第1部（石館）

福島市長の式辞

内閣総理大臣表彰を受ける箱田団長

現在、つがる市消防団は56分団、消防ポンプ車等82台が配備され、1276人の団員が消火栓や消防ポンプの管理、消火訓練等を行いながら、万一の災害に備えています。

観閲式では団員の視閲点検、消防車両の機械器具点検、分列行進等が行われ、29分団と航空自衛隊車力分屯基地第21高射隊が出場しての玉落競技も開催されました。また青森山田高等学校吹奏楽部の演奏で観閲式を盛り上げ、かしわ保育園、銀杏ヶ丘保育園の園児らによる「幼年消防クラブ」が、元気な行進や放水訓練などを披露し、将来の勇敢な消防士ぶりをアピールしていました。

引き続き開催された式典では、表彰伝達・授与式が行われ、254人の団員が各表彰を受賞。箱田鐵雄団長は、内閣総理大臣表彰を受け、木村太郎内閣総理大臣補佐官から表彰状が伝達されました。福島市長は「今日の災害は複雑化し、危険性が増大している。防災の要として、地域住民からの大きな信頼に応えられるよう、より一層の精進を期待する」と団員を激励しました。

今回の観閲式の結果は、柏大隊が日頃の訓練の成果と安定した力で3年連続の総合優勝を果たしました。

◆総合成績
（視閲点検、機械器具点検、分列行進）

優　勝	柏大隊	（341点）
第２位	木造第三大隊	（331点）
第３位	森田大隊	（330点）

◆玉落競技大会（第1位）

- 50馬力以下
  木造第６分団第１部（石館）　34秒10
- 51馬力～85馬力
  稲垣第７分団（下繁田）　1分15秒03
- 86馬力以上
  車力第３分団（牛潟）　40秒05

元気に行進するかしわ保育園（左）と銀杏ヶ丘保育園の「幼年消防クラブ」

アライグマ被害を防ごう

アライグマによる農作物被害防止対策現地研修会が6月3日、松の館で行われ、生産者や農協関係者ら約80人がアライグマの生態や捕獲技術などについて学びました。

この研修会はアライグマの被害が本格化する時期を前に基礎知識を学んでもらおうと県、市、鶴田町、鰺ヶ沢町が共催で実施。被害件数は年々増加傾向にあり、市では前年度42件の被害が確認されています。講師を務めた関西野生生物研究所の川道美枝子代表は「アライグマは繁殖力が強く天敵もいないので、住みついてから20年後には3万8千頭にまで増加する。確認された初期の段階でしっかりとした対策が必要」と講演しました。

その後、参加者は建物被害のあった吹原地区の弘法寺や食害のあった鰺ヶ沢町のスイカ畑へ赴き、被害状況を確認しながら、有効な箱わなの仕掛け方などを学習しました。

箱わなの説明をする川道代表

弘法寺で被害状況を確認する参加者

6月3日、柏地区で捕獲されたアライグマ

定期観光バスツアー運行

市内の名所を巡る定期観光バスツアーが6月10日から25日まで運行されました。

6月10日、市役所前で行われた出発式にはツアー客や関係者ら約30人が参加。福島市長らが歓迎のあいさつを述べ、関係者に見送られながらバスが出発しました。この日、参加者一行はボランティアガイドの山本薫さんの説明を受けながら、ニッコウキスゲが咲き誇るベンセ湿原や埋没林などを散策。爽やかな天候の中で、色鮮やかな初夏の自然を楽しみました。柏地区から参加した女性は「つがる市の良さを知ろうと思い申し込んだ。市外から遊びにくる子どもたちに紹介したい」と話していました。

埋没林の説明に耳を傾ける参加者

出発式での記念撮影

ベンセ湿原のニッコウキスゲ(左)とノハナショウブ

つがる市観光物産協会が発足

就任のあいさつをする川嶋会長

「つがる市観光物産協会」の設立総会が６月11日、松の館で開催され、法人、個人会員合わせて83会員での新組織が第一歩を踏み出しました。

同協会は、市観光協会（伊藤良二会長）と市物産協会（小山内金弥会長）の統合により発足。一層の体制強化と重複会員の負担軽減などを目的として、平成25年度から統合推進委員会を設置し、準備を進めてきました。設立総会で初代会長に就任した川嶋大史氏は「観光と物産を一体的に取り組み、地元の魅力を売り込んでいきたい」と抱負を語り、旧協会の両会長に花束を贈ってこれまでの労をねぎらいました。

木造剣礼会が全国大会出場

全国道場少年剣道選手権大会県予選会（４月29日、青森市）で木造剣礼会の小学生チームが初優勝、中学生チームがベスト８に入賞し、それぞれ７月29日から日本武道館で開催される全国大会への出場を決めました。

６月11日、市役所に訪れた選手や監督から予選での状況報告を受けた福島市長は「暑い中での全国大会となりますが、けがには気を付けて頑張ってください」と激励。江良武瑠君（瑞穂小６年）は「一戦一戦を大事にみんなで協力しながら頑張ります」と話し、高橋一翔君（木造中３年）は「初めての全国大会ですが、一つでも多く勝ち進みたい」と意気込みを語りました。

健闘を誓う木造剣礼会の選手たち

新鮮な商品を買い求める来場者

恒例の朝市がスタート

６月15日、木造地区の千代町商店街で今年度最初の朝市が開催され、多くの市民らで賑わいました。

開会セレモニーでは、福島市長が「商店街の活性化だけでなく、地域住民の交流の場としても賑わい、発展することを願います」とあいさつ。長谷川靖久実行委員長が「がんばろう」三唱し、朝市がスタートしました。会場では、大勢の買い物客が新鮮な産品を買い求め、しじみ貝のすくい取りやマグロの解体ショーなどが人気を集めていました。

朝市は街の駅「あるびょん」を中心に10月まで毎月第２日曜日に開催され、地元の野菜、果物、海産物などが販売されます。

「南水ひとり語り」開催

朗読家として活躍する熊澤南水さんによる舞台「南水ひとり語り」（NPO法人つがる野文庫の会主催）が６月１日、松の館で開催され、約450人の聴衆が太宰治の「津軽」などを題材とした魅力あふれる朗読に聞き入っていました。

東京都生まれの南水さんは、６歳の時に父親が病死。養女となって横浜市に移り住むまでの５年間を母親の故郷である旧稲垣村で過ごしました。講演では、「厳寒の津軽での貧しい生活が、耐える力など私の基礎を培ってくれた。津軽なまりを笑われた悔しい経験で言葉に対する強い気持ちが芽生え、朗読家を目指すきっかけとなったが、言葉の力を理解した今では、方言の持つ魅力を全国へ伝えたいと思っている」と話していました。

聴衆を魅了する南水さんの朗読

市連合婦人会が父の日訪問

福島市長を訪問した市連合婦人会の皆さん

6月第3日曜日の「父の日」を前にした6月9日、市連合婦人会が福島市長を表敬訪問し、花を贈りました。

この取り組みは、市民の父親代表として福島市長に感謝と慰労の意を伝えるため、毎年行われているもので、この日は、小笠原敬子会長、松橋悦子さん、工藤きみゑさん、菊池絹子さんが市役所を訪問。小笠原会長が「日頃からお仕事お疲れさまです」と盛り花とプレゼントを手渡し、同会の活動状況などを報告すると、福島市長は「率先的に幅広く活動されている皆さんにこちらこそ感謝しています」とお礼を述べました。

贈られた彩り豊かな花は市役所内に飾られました。

園児から花束を受け取る佐藤副市長

お仕事お疲れさまです

木造保育所（千葉敦志所長）の園児が6月第2日曜日の「花の日」にちなんで、市役所、つがる警察署、木造郵便局などの職場を訪問して、家庭から持ち寄った花で作った花束と壁掛けの絵をプレゼントしました。

6月4日、市役所に訪れた19人の園児たちは、讃美歌「この花のように」を合唱し「いつも私たちのために働いてくださってありがとうございます。お花を飾ってください」と佐藤副市長に花束を手渡しました。佐藤副市長は「すてきなお花をありがとう。皆さんも先生のお話をよく聞いて仲良くしてください」とお礼を述べ、お菓子をプレゼントしました。

小学生がアイガモ農法を実践

放したアイガモを観察する児童たち

米作りを勉強するため、瑞穂小学校（山谷文孝校長）では、毎年5年生が「おいしいごはんを作る会」（浜山敏彦会長）の指導を受けながら、アイガモ農法を実践しています。

雑食性のアイガモは水田内の雑草や害虫を好んで食べるため、無農薬で安全な米作りが期待できると、同校では9年前からこの体験を実施。5月26日に2.5㌃の学校田につがるロマンの苗を植えました。6月17日、同会の高橋金義さんから注意事項などの説明を受けた児童は、苗がしっかりと根付いた田んぼにアイガモ5羽をそっと放し、泳ぎ回る様子を観察しました。

児童らは今後、アイガモの世話と稲の成長を見守りながら、秋には稲刈り体験も行う予定です。

ホタルの幼虫を池へ放す園児たち

園児がホタルの幼虫を放流

つがる地球村の自然学習公園で5月23日、もりた保育園（田中潔園長）の年長児18人がホタルの幼虫150匹を池へ放し、成長を願いました。この日、園児たちはヘイケボタルの幼虫と餌のタニシが入った小さな容器を手に「元気に育ってね」と声をかけながら優しく放流。長谷川のんちゃんと葛西望夢君は「大きくなるのが楽しみ。また見に来ます」と期待を膨らませていました。

この放流会は、利用者にホタルを楽しんでもらおうと地球村が毎年実施しているもので、担当職員によると、7月から8月にかけて夜空にやわらかな曲線を描く光の舞いを鑑賞できるとのことです。